

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600939		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 高坂苑		
所在地	名古屋市中村区高坂町196-1		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の大型特養との連携を利点とし、様々な催しを実施したり、外出行事にも力を入れて積極的に取り組んでいる。また、緊急時の対応やバックアップの体制が充実している。利用書の尊厳を第一に考え、利用者本位のサービス提供にも努めている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは一般住宅に似た2階建ての建物で、周囲の住宅に溶け込んでいる。玄関、リビング、トイレに生花やフラワーアレンジメントが飾られ、2階天井は天窓で明るい。隣接して法人の特別養護老人ホーム、デイサービス等があり、以前デイサービスを利用され入居された方もある。施設の喫茶店の利用、行事や音楽療法への参加、夜間緊急時の対応等、複合施設の利点を活かしている。ホームは原則自立歩行だが、その後の生活支援への連携は家族の精神面の安心に繋がっている。週1回、歯科医の訪問や毎食後の歯磨きで口腔ケアが充実している。職員はケアや介護計画に自由に意見や提案をしており、チームワークもよく、人間関係でストレスは感じないとの話が聞かれた。地域住民のボランティアの協力となるべく散歩に出かけ季節を感じたり、五感を刺激するような言葉かけをしている。ケアマネジャーは「皆、仲良く明るく元気あるホームにしたい」と話された。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年2月13日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度に職員皆で話し合っってわかりやすいものに変更し、皆で共有できるようになった。また、「その人らしさ」を大切するケアにつなげられている。	「あなたらしく、わたしらしく、笑顔の架け橋」という理念は、昨年6月に職員で話し合っってつくりかえたもので、日々職員は互いにケアの中で再認識しながら実践に向け取り組んでいる。地域、家族の全てに笑顔の架け橋をつないでいきたいと考えており「その人らしさを大切にするケア」を目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に回覧板をまわしてもらい、町内行事に積極的に参加している。また、ホームに外部の方を招いたも催しを実施したり、近隣の方に定期的なボランティアにも入ってもらっている。毎日の散歩の際にも近所の人に声をかけてもらっている。	自治会に加入し、地域情報は回覧で得、地域の盆踊り大会、秋祭り、招待状が届き小学校の運動会等に参加している。同法人経営の幼稚園児の月1回の訪問がある。ホームのクリスマス会に近所の人を招待したり、近隣のボランティアによる散歩の同行、料理の補助、見守りの協力がある。実習生の受け入れや管理者が地域の認知症講座の講師を務めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の認知症講座などの講師をしたり、地域の施設ネットワークを通してホームとして地域住民に認知症介護の啓発活動をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の小学校との交流は運営推進会議で委員さんの計らいで実現できた。委員さんにはホーム内を定期的に見てもらい、利用者の様子なども見てもらい意見をいただいている。	外部評価の結果、近況報告、今後の予定等を報告し、時にはホームや入居者の様子をもてらいい意見をいただきサービス向上に活かしている。参加メンバーの口添えで地域との交流が拡大している。12月開催時には、2月設置のスプリングクラブや料金改定の話をした。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のグループホーム連絡会にて区の行政担当や地域包括職員等と連携をはかっている。また、運営推進会議の委員に地域包括職員が入っている。	昨年、天白グループホーム連絡会を立ち上げ、会議や親睦会の場で区の福祉課職員と連携を図っている。「てんばくの施設がわかる本」を作成し、区役所に置いてもらったり、管理者は社会福祉協議会主催の家族教室の講師を務めたりしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の勉強会・研修等に参加するとともに、職員間でも話し合い正しく理解はできているため、身体拘束はしていない。門扉施錠は防犯上行っている。	重要事項説明書の留意事項「その他」でやむを得ない場合を除き、身体拘束、その他行動を制限する行為を行わないこと、必要時には施設より説明し、了解を得ることを明示している。研修、勉強会等で身体拘束についての弊害を職員も理解し、現在拘束はない。職員間で話し合い、門扉のみ防犯上施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会・研修等に参加するとともに、職員間でも言葉遣い等も話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会・研修等に参加し、知識や活用法は学んでいる。現在は活用している利用者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	リスクも含めてホームの生活が納得できるよう懇切丁寧な説明をするよう努めている。改定時は個別で説明し、ご理解を頂いた上で同意書もとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しているが、意見・要望等は直接職員に言われることがほとんどである。また、それらのことは運営推進会議でも話し合っている。	奇数月には入居者の様子を書いた個別ノートで近況報告をし、偶数月には行事の写真や予定を載せたホーム通信「メモリーズ」を配布している。家族等が気軽に来訪できるような雰囲気づくりを心がけ、コミュニケーションを図っている。玄関に意見箱を設置しているが利用はない。家族会はないが、行事への参加呼びかけで家族同士の交流を心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案ノートをもとに業務が行われている。	職員会議で処遇等、職員の意見を聞いたり、介護面では「提案ノート」に書かれた個々の意見を基に検討し、実践に活かしている。常勤、非常勤ともに希望があれば法人内外の研修に参加でき、ケアの質の向上に努めており、チームワークもよい。勤務体制や配置異動に関しても都度、職員の話に耳を傾けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的には現場職員の意見を尊重した施設運営を心がけている。また、労働環境改善以外に福利厚生の実施にも努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会・研修等に参加する機会を積極的に設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム連絡協議会や区のネットワーク等の研修会に職員を参加させたり、他のグループホームと相互に施設見学等をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望の実現に向けて最大限努力しているとともに出来るだけ些細なことも言うように日頃から傾聴に努めている。入所に十分なアセスメントが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望についても可能な限り実現できるように努力しているが、利用者本人同様に入所前に十分なアセスメントが出来ていない。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・家族からの聞き取りと、センター方式に記入していただくことにより、事前に必要としていることを把握するように努めている。また、必要に応じて他の施設などを紹介することもある。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常全般で利用者と共働して、関係作りに努めている。(家事やティタイム、散歩等)しかし、時々職員が指示的に対応してしまう時もある。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム通信や近況報告で定期的に家族とコミュニケーションを図っている。また、運営推進会議や面会時にも状況報告したり、お互いに相談している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	デイサービスや喫茶店など利用者が以前に利用していた場所に行ったり、行事に参加したりしている。また、馴染みの方(知人等)の面会もしてもらっている。	知人等、顔馴染みの方の面会や電話は自由に行っている。以前、利用していたデイサービスの運動会、夏祭り、音楽療法といった行事に参加したり、かかりつけ医も家族の希望を尊重している。入居者と機会を見つけて近くのスーパーや八百屋さんへ買物に出かけたり、家族の協力のもと、馴染みの美容院を利用し継続的に交流を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係(合う合わない等)を考慮して、行事等を計画している。また、孤立しがちな利用者は職員が積極的に声をかけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人の特養に入所された方については、入所後も面会したり、特養職員の相談にのったりして協力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人から希望や意向を聞き取っているが、それが難しい方は家族と相談しながらそうように努めている。また、「申し送りノート」に利用者の「つぶやき」も書き留めて会議等で検討している。	家族に記入してもらった資料を基に、本人の生活歴や好きなこと、苦手なことを把握し、日常のケアで入居者の会話より何気ない一言を「つぶやきノート」に書き留めている。笑顔が見られたら観察して、思いや意向、希望を把握し情報の共有に努めている。困難な場合は、職員が実施してみよう選択肢を絞っている。入院等で介護度に変化があれば、アセスメントを更新し、本人本位のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に得た情報は職員で共有できるように書面にしている。また、入所後に得た情報についても記録して会議等で情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々の気づきは申し送りノートやケース記録に残し、職員で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当制にすることで、きめ細かい個別介護計画を作成するよう会議やケース検討等で話し合っているが、職員によって情報収集に多少のバラツキがある。	職員は1～2名の担当をもっている。初回はアセスメント、本人や家族の希望を基に作成し、担当職員の意見や全職員参加のカンファレンスで検討し完成させる。家族に確認をとり、希望があれば再度作成することもある。3カ月毎に介護サービスチェック表、担当者との相談で見直しを行っている。日々の記録や提案ノート、希望等何かあれば随時見直し、現状に即した計画を作成している。家族には都度説明している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個別の介護サービスチェック表や提案ノート等を活用すると共に担当職員と相談しながら、随時見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所単体で解決が困難な時は、外部のサービスを活用したり、ボランティアの協力を得て柔軟に対応している。また、同一法人の協力も得て様々なニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校行事に参加したり、商店街を利用している。また、地域のボランティアも定期的にお手伝い頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、以前からのかかりつけ医に往診して頂いているが、夜間の緊急時の対応は家族の負担になるので、現在の課題である。	以前からのかかりつけ医に受診している人は半数程おり、他は協力医にかかっている。休日のかかりつけ医不在の所は協力医に受診している。協力医以外の受診は家族の対応となっている。歯科医の口腔ケア訪問が毎週あり、丁寧な指導により入居者の口腔の状態は非常に優れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職は配置していないが、同一法人施設の看護職などに相談している。また、かかりつけ医に直接状況を伝える等して指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備のある医療機関との関係作りは特別していないが、入院時には病院との連絡は小まめにしている。また、見舞い等から状況把握することもある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度対応していない為、入所前から家族とは方針の共有は出来ている。また、必要に応じて重度化に向けての相談や支援もしている。	重度化、終末期対応はしておらず、今後も対応しない方針である。家族、本人も納得して入居している。現在は、自力で行動できる人が入居している。必要に応じ、次の段階を探すことへの協力や、サービスの紹介など相談、支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。また、職員はAEDの講習を受けている。しかし、定期的な研修等は出来ていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また、運営推進会議のメンバーに元学区の消防団長がいる為、アドバイスも頂いている。それに加えて敷地内の特養の応援体制(人手と備蓄)もある。	避難訓練は年4回実施している。夜間を想定して行われ、手順、避難経路を確認し入居者も一緒に行っている。避難時には、隣接の特別養護老人ホームからの応援体制がある。AEDの講習も職員は年に数回受けている。現在、備蓄品は特別養護老人ホームに保管されている。	備蓄品は特別養護老人ホームに保管されているが、災害状況によって隣であっても入手困難になることを想定し、ホーム内でも多少の準備をされることが期待される。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時には必ず許可を得て入室している。また、個別に声かけの仕方を工夫している。	入居者の尊厳と権利を守ることを職員には周知徹底し、確認している。トイレ誘導には小声で、失禁時は他の人の目に触れないよう配慮し、トイレ、入浴の介助時には戸を閉めることに気をつけている。言葉遣いや声かけにも気をとめ、居室へはロック、声かけてから入室している。個人の記録は目に触れない場で記入している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には利用者が選択できるように時間をかけて個別に声かけを工夫して対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は、利用者のペースに合わせている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用している。また、季節に合った着替えの支援と、外出時のお洒落着の支援を個別にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の嗜好に合わせて栄養士と相談しながら代替食を提供している。また、食事の準備・食事・片付け等は利用者と一緒にを行い、雰囲気作りも工夫している。</p>	<p>朝食はホームでメニューを考え作っているが、昼食と夕食は隣接する施設へ取りに行き、人によりお粥、刻み、一口大などしている。毎週水曜日の希望メニュー、誕生日の食事はホームで作っていて、買物は入居者と一緒している。糖尿病の気がある人には盛り付け量で調節している。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の咀嚼力や嚥下力を考慮して食事形態を変えている。また、栄養面に関しては管理栄養士と相談し個別にコントロールしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを実施。また、週1は歯科医、歯科衛生士が来苑し、検診と口腔ケアの指導をしている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握する為に、チェック表を活用し、適切な誘導などを行っている。また、会議等でも個別に話し合っている。</p>	<p>排泄チェック表を活かし極力、紙パンツを使わないようパターンに応じてトイレ誘導をしている。普段使用していない人でも外出時やお腹をこわした時には、紙パンツを使用することで失敗をさげ、不安にならぬよう努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事の中に乳製品を取り入れたり、散歩等の運動を取り入れたりして自然排便を促しているが、困難な方は処方された下剤を排便パターンに合わせて調整している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>個別の希望に沿うようにしているが、必ずしも希望に添えない場合もある。(時間等)ただし、無理強いはいしていない。</p>	<p>入浴は週2回で、1日3人が入浴している。夏はシャワーをすることも。面倒くささや羞恥心もあり、入浴を好まない人がほとんどである。特に入浴嫌いな人には、工夫をして誘導している。季節のバラ、柚子湯の時は、皆楽しんでいる。入浴と散歩のどちらかという外気にふれる散歩が好まれるので、現在の状態になっている。</p>	<p>入浴嫌いの入居者が多いことに加え、職員数や時間帯等の理由もあり、週2回となっているが、入浴による爽快感や清潔保持の上でも、入浴の増回等について検討されることを期待したい。</p>
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室内はエアコン完備で寝具も毎週1回は取り替えている。また、午後2時間程度休息の時間を提供している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診した際は報告書を作成し、症状や処方内容を確認している。また、薬は毎食ごとに違う袋で小分けにし、誤薬防止に取り組むと共に服薬の確認もチェック表を用いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事の中で希望に応じて仕事を分担して頂いている。また、月に1回は外食の日を設けたり、誕生月には手作りケーキでお祝いをしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際は、家族等に連絡して希望に添えるように調整をしている。また、四季折々の外出行事も企画し、ボランティアの協力も得て実施している。	体力や天候に応じて散歩サポーターの協力を得て、ホームの近くを散歩したり、四季の外出行事に参加し楽しんでいる。正月には車で初詣に出かけ、各々の願いをかけてきた。サポーターとは、社会福祉協議会に登録されているボランティアのことで、手助けを希望し申し込んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は事業所で管理しているが、小額な金銭に関しては希望のある方には所持して頂いている。また、支払いも出来る方にはして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所内の電話を使用していたりしている。手紙に関しては希望がない為、未実施。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはフラワーアレンジメントや生花を飾ったり(毎週)、壁面には月ごとのテーマに合わせた作品を飾っている。ベランダにも花が植えてある。また、空調もその都度、温度・湿度共に調整している。	フロアには月毎のテーマに合わせ、入居者合同の作品を飾る場があり、今月は"波間の富士"のちぎり絵が貼ってある。浴室トイレには棚、タンスに種々の物が置かれ、手の届きにくさが工夫されている。浴室や廊下には、所々に色テープがはられ、安全に配慮されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F、2F共にソファを置いて、いつでも気軽に利用者同士がくつろげる場所を提供している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等持ち込みは自由になっている。また、セッティングに関して希望があれば、お手伝いしている。	居室ドアのガラスはステンドグラスになっている。表札には花名とその花が描かれ、各自の部屋が分かりやすくなっている。仏壇を置いている人もみえテレビやタンス、カレンダー、時計などがあり、どの部屋も落ち着いた雰囲気である。リクライニングベッドを入れている人もみえ動きやすくなり、室外へ出る意欲がわき、日中はフロアで皆といることが多くなった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくしたり、台所の物品に関しては収納してある場所をわかりやすく表示している。また、手すり等は認識しやすいように一部テープなどを貼り付ける等の工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム高坂苑

目標達成計画

作成日: 平成 22年 2月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	入浴介助は毎日行っているものの、職員数や時間帯の関係で1日3名程度で1人あたり週2回程度に制限させてもらっていたが、入浴嫌いの方もおられ清潔の保持が難しい場合もある。	利用者のタイミングで週に3回程度は入浴できる機会を作る。	1、業務を見直し、1日に4名以上が入浴できるくらいのゆとりのある時間を設ける。 2、入浴嫌いの方も楽しめるように入浴剤等の使用も検討する。	4ヶ月
2	35	特別養護老人ホームの敷地内にあるグループホームの為、災害用の備蓄品は特別養護老人ホームで保管しているが、被害状況によっては保管先が隣の施設であっても入手困難な状況が考えられる。	どのような状況になっても対応できる準備を整える。	1、ホーム内に備蓄できる空間を確保する。 2、食料品等を3日分程度保管する。 3、備蓄品・備蓄場所等を関係者全員に周知する。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。